

NX-BY700

予告品種
キャベツ

第65、66回 全日本野菜品種
審査会1等賞受賞

開発背景

- ・中間地秋どりに適する、良質系中早生種の開発。
- ・慣行品種は黒腐病の発生や気候による甲高球の発生等が問題になる。

開発コンセプト

- ・中間地10～11月どりにおいて球形良好で揃いの良い良質系中早生種。
- ・病害の発生が少なく、耐暑性があること。



特性

- ①定植後63～65日程度で収穫適期になる良質系中早生種タイプ。
- ②球色は鮮緑色。扁円球でまとまり、甲高になりづらく玉揃いが非常に良い。
- ③球重は1.5～2.0kg。結球充実型で肥大が早い。
- ④肥大性良好で、湿害に強く小玉になりにくい。
- ⑤萎黄病抵抗性をもち、黒腐病耐病性(レース1、5)をもつ。
- ⑥球尻は平滑で芯が細く、収穫作業性に優れる。

「NX-BY700」のアピールポイント

①湿害に強い

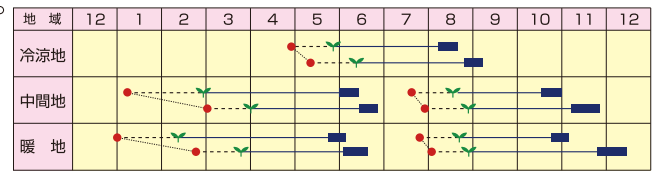
草勢はやや旺盛で球の肥大良く、湿害に強いです。近年の台風や長雨などの異常気象でも安定して揃いが良くきれいな形になります。

②収穫作業性が良い

球尻が平滑で芯が細く収穫作業性に優れるため、一日の出荷量が増えても疲れにくいです。

③病気に強い

萎黄病抵抗性をもち、黒腐病耐病性も持っています。黒腐病が発生しやすい圃場でも作りやすいです。



黒腐病発生圃場でも
発病の見られない「NX-BY700」

産地レポート

～茨城県西地区～

9月下旬～10月どりに向く重量型キャベツ

弊社では、マーケットの変化に伴い、加工業務向け重量型寒玉キャベツの開発を進めております。茨城県西地区では近年、キャベツの作付時期を早める傾向が強くなっていますが、9月下旬～10月は高冷地からのキャベツと出荷が重なる時期でもあり、やむを得ず、収穫せずに畑に置かなければならないケースが増えています。

弊社が提案する「NX-BY700」は、下記の特長を備えています。

- ①裂球が遅く在圃性が高い
- ②大柄で2kgオーバーを狙える
- ③黒腐病・べと病への耐病性が高く、歩留りが期待できる



NX-BY700(左)と味珠(右)
7月25日定植、9月20日収穫

2018年も試験を継続します、詳細は営業担当まで。